

〔第一章〕茶道こぼれ話

口 炉 風 茶 茶  
名残り 切 21 炉 室 道  
かけながし 30 26 18 15 12  
続き薄茶 34 33  
花所望 35  
六歌仙花月之式 34  
炭 37

帛 七 天 水 炭  
紗 台 目 山 指 斗  
47 46 44 42 39

刀掛の穴 三阿弥 雪薄町棗建蓋柄茶茶  
草庭中九興 吹器棗 69 水置杓巾筅  
砂 ときやろ 八火甫 松波堂 91 89 88 87 85  
張り 90 83  
79

丸窓	お茶を挽く	195	191	186
陶工柿右衛門	天狗谷	184	181	178
婆々瓦	真珠庵			
177	第三章 茶染隨筆			

味噌松風	香の物	うどん	川蝦	四つ頭
茶の薬効と毒	物相	163	159	155
かきもち	かきもち	151	149	142
172	165	169		

〔第二章〕 食べ物談義  
茶事の思い出

宗拙の墓	立礼考	束脩	一華開五葉	放下着	圓相	破草鞋	齋叟	前田利長のこと
125			118 116	114 112 111			109 107	96 93
			132	115			105 103	
							101 97	

雨と狂言師	十三夜	花釘	車井戸	かま風呂	211 206 203	199
扇	218					
縁結び地蔵						
禿の文公	228					
盜難	225					
俱胝堅指		221				
234						
232						
235						

本書は昭和三十四年に小社より刊行された『新選茶の湯読本』の新版です。旧版の旧仮名づかいや旧字体等は表記を改め、明らかな間違いは訂正しました。また、難読な語句については新たに振り仮名をつけました。